



背伸びしてみる

後期である。早速英語の実力テストが始まる。心して取りかかろう。

ところで、いよいよ志望校を決め、本格的に過去問などの演習にも取り組む時期となった。つまり、入試問題そのものと向き合う時間が増えてくるわけだが、そういう時、何となく息苦しさを覚えるようになったら、ちょっと息抜き…といったは何だが、目先を変えた勉強をしてみると、気分転換になったり、視野が広がったりして、入試問題の世界にも新鮮な気持ちで戻って行かれるようになったりするものだ。

で、その息抜きにふさわしい勉強法の一つが、「得意科目をちょっと背伸びしてみる」という勉強法である。

例えば英語が得意な人は、「東大教養学部で使われている英語の教科書を読んでみる」といったことが考えられる。このテキストは東京大学出版会から発売されていて、一般の書店でも手に入る。1年生用が

"The Universe of English(2)"

2年生用が

"The Expanding Universe of English(2)"である。ただし、これはちょっと古くなっており（しかもレベルがちょっと高めかも）、2006年から新バージョンが出た。それが

"On Campus"

"Campus Wide"

の二冊。文・理最先端のテキストが選ばれており、見開き左ページが英文本文、右ページが語注などの注釈ページになっているので、辞書がなくても読み進められるし、その文章を編集した東大の先生の導入文もついていたりして、楽しく勉強できる。英語が得意だと

いう人は、ぜひ背伸びをしてみるといいだろう。進学校の中には、補習などの題材に活用しているところもあるようだ。なお、最新刊としては「東京大学 教養英語読本 I」「同 II」、さらに英作文用として"First Moves"などもある。ぜひ本屋さんで見比べてほしい。

数学の背伸びと云ったら、高木貞治の『解析概論』（岩波書店）が嚆矢であろう。1938年に初版が出た名著で、数学が得意な人にとっては、その簡明な美しさがたまらないらしい。たぶん図書室にもあると思うので、まず興味のある人は図書室へ。かなり売れている本だから、古本屋さんでも1000円程度で手に入るかも知れない（2010年に新装版として出た『定本解析概論』は3456円也…）。ちなみに、私も高校生の時に買った。しかし、最初の2ページくらいで挫折した。数学が得意だったわけではなく、単に背伸びしたかった（数学の美しさに触れてみたかった…）から買ってみたのだが、美しさの「う」の字にも出会えないまま玉砕、以後無用な背伸びはしないことにして、数学との付き合いも永遠にやめることにした…泣・笑。

古文では、古典講読の授業でも紹介した、北村季吟の『源氏物語湖月抄』（講談社学術文庫）を推薦しておこう。的確に取捨選択された古注釈の引用を読み進めていくと、どうやって源氏が読み継がれてきたのかが伺われるとともに、学問はこうやって継続するのだなあということも感じられて、一時、感慨にふけることができるだろう。

という訳で、たまには背伸びしてみよう！